

下山田村と増山城の歴史

河合雅司

下山田の地は、平安中期(大治元年,1126年)頃、京都徳大寺家の所領となった。鎌倉時代になると貴族に代わって武士が統治するようになり神保増山城主の所領となる。そして、下山田は下和田と呼ばれ上和田、中和田とともに増山城の城下町になった。また、増山城をめぐる戦が繰り返され、神保氏は敵に包囲されると籠城して戦った。下山田の向山の神来嶋というところの山腹から清水が湧き出ており、この水を増山城へ供給する秘密の給水路があり、上杉軍に和田川の水を止められても落城しなかったが、婆々谷の尼がその秘密を上杉謙信側にもらしたため落城したと伝えられる。しかし、現在の所、この給水路は不明である。



図1 下山田村道(向山の湧き水) ; 豊富な水を増山城へ給水した

増山城の城主は、神保氏、上杉氏、佐々氏、前田氏と変遷し、下山田村の名称が文献で確認できるのは慶長7年(1602年)に記された前田利長の印書からである。

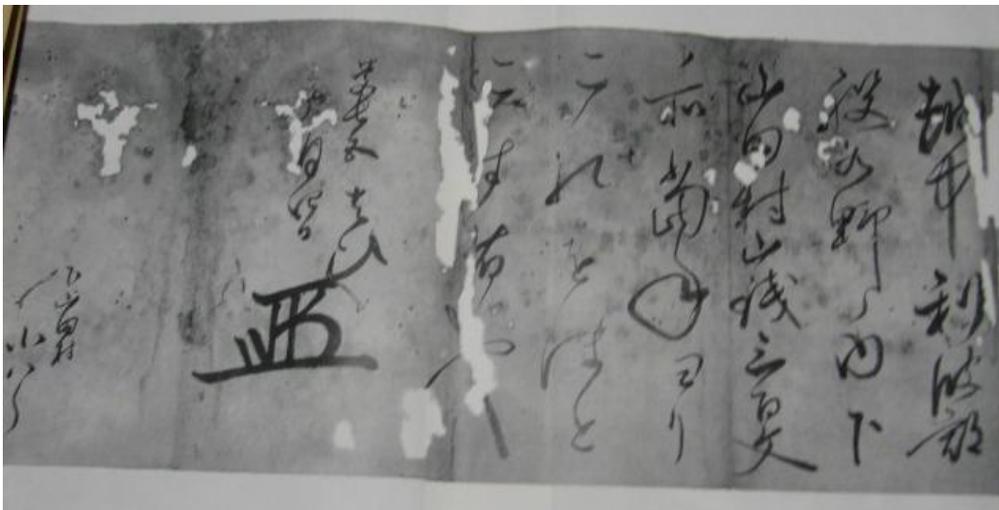


図2 山銭300文の山を拝領した時の前田利長の印書(慶長7年)

下山田村中興の祖は幼名を小八郎といい、後に河合孫兵衛を名乗った。小八郎の母は下級武士であった河合凶書の娘(名は不明)で、1594年頃に利長の居城(守山城)で利常の乳母を務めた。

慶長5年(1600年)に、利長から小八郎を家来にする旨の申し出があったが、これを辞退し下山田村の山(山銭300文、256807m²)を拝領し、慶長7年(1602年)に印書(花押付き)を頂いた。慶長9年(1604年)より拝領山の税金として山銭700文を毎年収めたい旨を申し出て、これが承認され印書を頂いた。これらの印書には「下山田村小八郎」と書かれている。この後、小八郎と母親は度々守山城を訪ねて、年賀の御礼等も勤めるようになり、芳春院(利家の正室、名は'まつ')から銅鏡を拝領している。

小八郎は増山城「葵の門」の管理をしていた。河合孫兵衛家から向山の峰まで下山田村道が通っており、増山城孫次山砦へ向かう途中に城門跡が残っている。「葵の門」があった場所は不明だが、ここにあった可能性がある。



図3 村道起点：孫兵衛宅跡(現在は旧下山田公民館・ゴミ集積場・畑等があり、河合孫兵衛の子孫は、高岡市御旅屋町の河合万年堂である。)



図4 下山田村道



図5 城門跡(葵の門?)

小八郎の時代(前田利家の次女・簫姫[しょうひめ:瑞雲院]が増山城に居城した江戸時代初期)に増山城(孫次山砦)の城下町として栄えた下山田村は、慶長20年閏6月13日(1615年8月7日)に

江戸幕府が制定した一国一城令により 1615 年に廃城となった後衰退し、現在では過疎化が進み 2024 年 4 月現在 22 世帯 84 名の集落となっている。

参考文献

- ・先祖由緒一類附帳(明治 3 年), 河合平三著
- ・下山田村誌(平成 3 年), 編集者:大木和平, 発行者:河合吉信
- ・増山城跡総合調査報告書 本文編・付図編(平成 20 年),
編集・発行:砺波市教育委員会

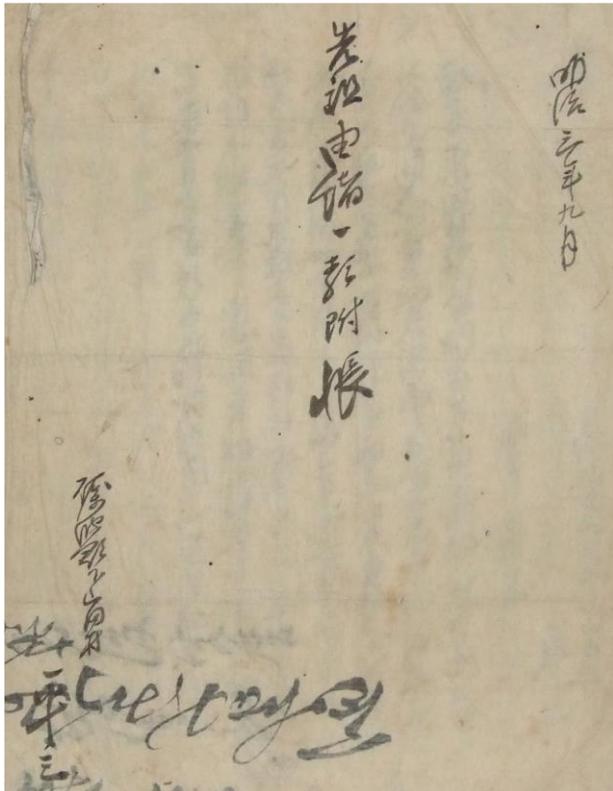


図 6 先祖由緒一類附帳(明治 3 年)

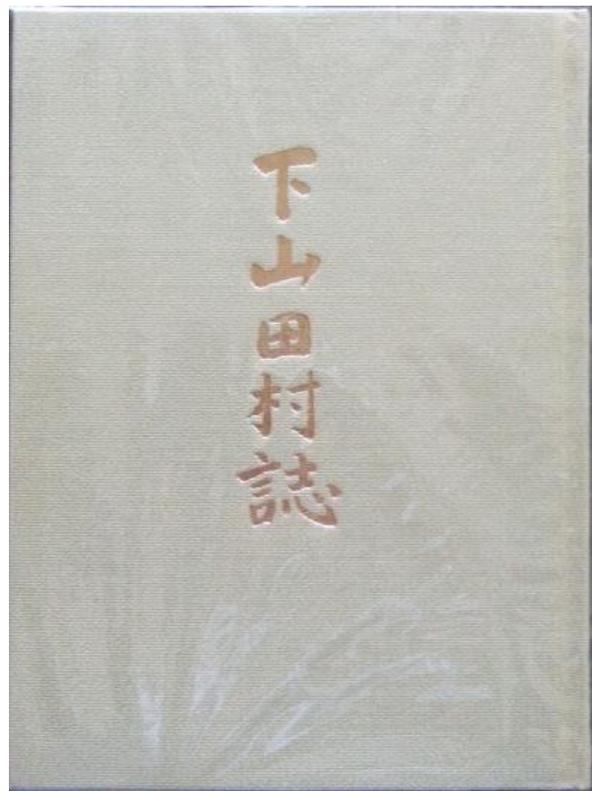


図 7 下山田村誌(平成 3 年)



図 8 増山城跡総合調査報告書[本文編][付図編](平成 20 年)

☆歴史探索「増山城跡と城下町」の概要

- 行程 10:00 河合雅司宅出発,
10:30~10:45 下山田村道終点で休憩,
11:15~12:00 孫次山砦跡で昼食,
12:35~12:45 亀山城跡で休憩,
13:30 河合雅司宅着

2009年7月23日に国指定史跡に指定された増山城跡(増山城, 亀山城, 孫次山砦)は、土木工事だけで防御機能を有した山城で1615年に廃城となった。増山城と亀山城は遊歩道が整備されているが、現在、孫次山砦には遊歩道が無いいため一般人は行くことができない。

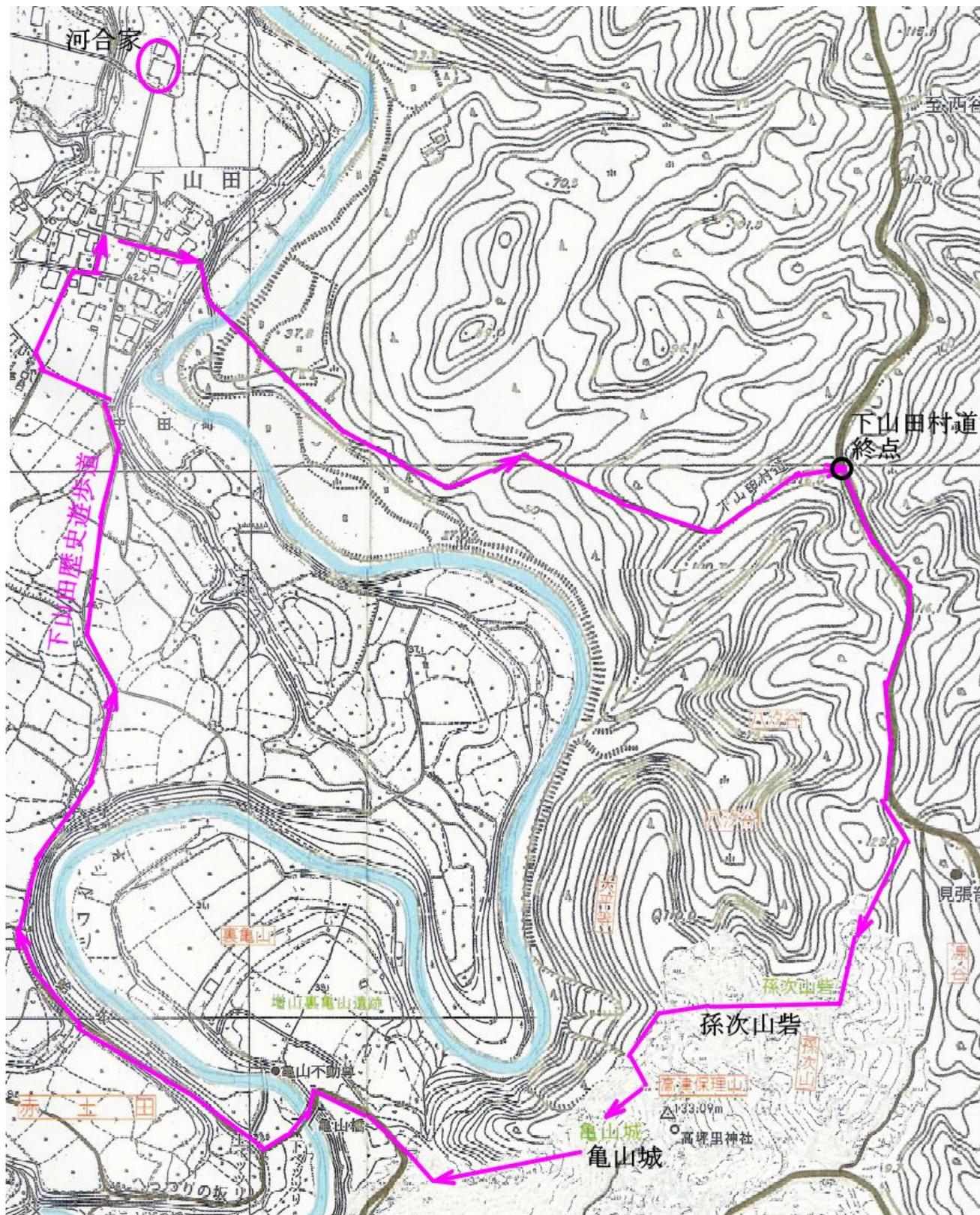


図9 歴史探索「増山城跡と城下町」の地図